

あきたの 地域医療通信

2015年10月 第22号

発行／秋田県健康福祉部医務薬事課
医師確保対策室



由利本荘市の鳥海診療所では、前所長退職後の後任医師の確保が難航し、住民も大きな不安を抱えておりましたが、こうした中で、現所長の石川成範先生が着任を決断され、平成26年4月より診療を開始しました。今回は、石川先生に、赴任しての感想や地域医療の魅力などについてお伺いしました。

【鳥海診療所への赴任を決断した経緯】

私の医師としてのスタートは、循環器病学をメインとする島根大学医学部第4内科講座でした。専門医を目指し、臨床や研究活動を行っていく生活は充実したものでした。しかし、地域での研修等を通し、比較的早い時期から、より患者さんに身近な地域医療に惹かれる自分を感じていました。そのせいもあり、循環器以外の疾患についても、機会を見つけては教えを乞うように努めていました。

30代の後半には、5年間に亘り、内視鏡を含めた消化器の勉強をさせていただく機会にも恵まれました。40歳を過ぎた頃に、呼吸器専門医として活躍している同門の先輩から声がかかり、循環器担当ということでの先生が勤務する医療センターに赴任することになりました。これを良い機会と捉え、今まで不安を感じていた呼吸器疾患について一から勉強をさせていただきました。学会活動等も積極的に取り組み、呼吸器専門医を取得できました。



50歳に近づき、若い時に抱いていた地域医療への関心がますます高まり、やるなら今しかないという気持ちを持ち始めました。ただ地域で働くといってもどこ



診療所長
石川 成範 先生

【プロフィール】

島根県出雲市出身。島根医科大学（現島根大学）を卒業後、松江市立病院や松江医療センターなどの勤務を経て、平成26年4月、鳥海診療所長に就任。現在に至る。

に行けばよいのだろうと思った時、医師不在のため存続の危機にある鳥海診療所のことを知りました。最初お話を聞いたときは、有床で、しかも一人勤務でもあり、不安が強かったのですが、市長さんや市の担当者の方々の強い熱意に後押しされるようにして決断しました。今までの多くの機会を与您にいただき学ばせていただいた経験を生かせることになればとも思っていました。

【鳥海診療所での勤務】

診療所の勤務は月曜日から金曜日までですが、入院病床があるため夜間や休日等の時間外も自宅待機となっています。勤務の午前中は外来、午後は往診や近くの老人施設での診察、カルテ整理などを行っています。勤務医の頃からの習慣で、朝は少し早く出勤し病棟の回診を行い、必要に応じて指示を出してから外来に向かいます。入院患者は10人弱で、糖尿病などの教育入院等も行うことがあります。肺炎や寝たきりの患者が多く、看取りも行っていきます。

交通弱者である高齢の方などに配慮し、外傷や整形疾患、精神疾患なども含め専門の領域にこだわらず、今までの経験を生かすことができることは極力対応しています。一方、中核病院等にも積極的に相談するようにし、適切な紹介のタイミングにも気を配っています。専門にとらわれず、様々な診療科の先生に教を乞うてきたことが、ふっと役立つことがあり、多くの先生との出会いに感謝している日々です。

【秋田での生活】

1年半になりますが、やはり秋田の冬の寒さの厳しさは堪えています。また秋田弁はあまりにも難解で、会得するのはまだまだ先となりそうです。診療では表情を含めたボディランゲージでコミュニケーションに努めています。時にはスタッフによる通訳に助けられてはいますが、穏やかな方が多く、診療所のスタッフや住民の皆様にもいろいろと配慮頂き、仕事も生活もやりやすく感謝して過ごしています。

一方でオンオフの切り替えが困難であるという点があります。入院があるため、時間外もほとんどが拘束され、秋田の美しい自然を味わうことができないのが残念です。市内の病院から応援に来ていただいておりますが、病院自体も医師不足であり、申し訳ないと感じています。この点が早期に改善されることを望んでいます。

【地域医療の魅力】

地域医療の現場では、患者さんとの距離が近く、様々な訴えを直に聞き、解決に導いたり、一緒に悩んだりというアプローチができます。うまくいかずに悩みが深くなることもありますが、これが、地域医療の魅力の一つだと思います。正解が一つとは限らず、その都度患者さん個々のオーダーメイドに応えなければならず、人間的にも勉強し続けなければなりません。うまくいった時の直に感じる患者さんからの感謝は、この上ない喜びとなります。

【今後の目標】

僻地だということを理由に、いい加減な医療を提供することは許されません。医療の進歩は早く、現在の標準

的な医療あるいは先を行く医療を目標にする必要があります。幸いに当診療所では、市の大きな理解のもと、病院にも引けを取らない医療



住民との勉強会の様子

設備を整えていただいております。素晴らしい環境の中で診療させていただいております。今後も医療の質の維持、向上に努めていきたいと考えます。

赴任してから、高齢者の肺炎予防のため、老人施設の職員の方々に御協力いただき、入所者の肺炎球菌ワクチン接種を積極的に勧めたり、近隣の歯科医師の協力を得て、入所者の口腔内チェックや介護者のスキルアップなど、誤嚥対策の強化を図ってきました。結果として昨年は肺炎による入院が半減しています。こういった予防活動以外にも、地域で必要とされる医療・介護のニーズには様々なことがあります。住民の様々なニーズをくみ取り、この地域に鳥海診療所があり、自分という医師がいるから安心して生活できると思っただけの仕事が続けることも目標としています。

鳥海地域には当診療所を含めて3つの診療所があります。過疎化の進行するなかでこの3つの診療所が一体となり効率にも配慮し、住民の皆様安心して過ごしていただける診療体制を市とともに整備していくことも重要と考えます。

【若手医師や医学生へのメッセージ】

若い医師の皆さんには、若い時期に、症例数が多く、優秀で熱意のある指導医のいらっしゃる病院で、多くの質の高い経験を積むことをお勧めします。積極的に取り組んでいけば、多くの素晴らしい先輩医師に巡り合えます。医師には、研究、最先端の医療、診療所を含めた地域医療、行政など様々な進路があります。しかし、基礎さえしっかりしていればどの方向に進んでも活躍できます。一生懸命に取り組めば、自然と自分に向く処に辿り着くはずですよ。

地域に寄り添う医師・医学生キャリアアップセミナー2015

8月15日(土)に、自治医科大学卒業生、秋田大学医学部生及び県内で活躍する自治医科大学卒業生等を対象とする「地域に寄り添う医師・医学生キャリアアップセミナー」を開催しました。

第一部の講演会では、広島県北広島町雄鹿原診療所長の東條環樹先生より、「僻地診療所が地域をつくる ～地域医療ってホントはイケてる～」と題して御講演いただきました。第二部のグループ討論会では、「地域医療を支える医師の連携とキャリア形成」「総合医の役割と養成」「秋田県(秋田の病院)の魅力向上策」をテーマに熱心なグループ討論が行われました。病院や大学、世代の垣根を越えて地域医療について話し合う、大変有意義なセミナーとなりました。



秋田県臨床研修担当者ミーティング

9月15日(火)に、県内の基幹型臨床研修病院と協力型病院の事務担当者が一堂に会し、『研修医のサポート』について考える「秋田県臨床研修担当者ミーティング」を初めて開催しました。秋田大学医学部総合地域医療推進学講座 蓮沼 直子先生より、医師のキャリア形成などについて講演していただき、続いて行われたグループディスカッションでは、各病院が抱える課題や改善策などについて情報を共有するなど、県全体の研修サポート体制の充実に繋がる良い機会となりました。



秋田県職員医師を募集しています。

秋田県内の自治体病院等で診療に従事していただける医師を県職員として採用します。

勤務期間は
4年間が1単位

- ◎3年間は県内の自治体病院等に勤務
 - ◎残りの1年間は希望する医療・研修施設において、有給の研修・研究が可能
- ご連絡いただければ、直ちに資料をお送りします。

あきたの医療情報 みてたんせ

検索

イベントカレンダー

開催月日	名称	対象	場所	お問合せ先 (団体名/電話/FAX)	
10月	30日(金)～31日(土)	第9回レジデントスキルアップキャンプ2015	研修医	ホテルサンルーラル大湯	秋田県臨床研修協議会 TEL:018-860-1410 FAX:018-860-3883
	31日(土)	医学生のための必修・実践セミナー2015 in AKITA	医学生	秋田大学医学部附属病院シミュレーション教育センター	
11月	7日(土)	第4回全国シンポジウム「日本の国情・2次医療圏の実情を熟考して、理想的医師・医療者育成教育の展開を考える2015」	医師 医療関係者	秋田キャッスルホテル	秋田大学医学部 総合地域医療推進学講座 TEL:018-884-6226 FAX:同上

秋田大学医局紹介

秋田大学医学部
循環器内科学、呼吸器内科学講座(第二内科)
伊藤 宏 教授

当教室は、故金澤知博先生を初代教授として昭和47年(1972年)4月に開講いたしました。1. 良質な医療を提供すること、2. 学生・研修医師・専門医師を教育・育成すること、3. 疾患の病因解析・新たな治療法開発・予後改善のための基礎および臨床研究を発展させることを3本柱として、開講当初より多くの循環器内科医、呼吸器内科医を輩出してきました。同門会員数も多く、秋田大学医学部の中でも最大級の伝統のある教室です。

循環器病学および呼吸器病学を担当領域としておりますので、緊急対応から予防医学まで幅広い臨床能力、臨床経験

が試されることもまた第二内科の特徴と言えます。高い専門性の中に内科医としての総合性を併せ持つことが求められる分野だと思えます。



現在の地域医療を取り巻く厳しい環境、種々の困難な状況がありますが、基幹病院の屋台骨として医局員一丸となって取り組んでおります。ぜひ多くの志ある若い医師の方々に集まって頂いて、秋田県の地域医療の振興と世界に発信できるレベルの高い研究を行っていきたくと考えております。

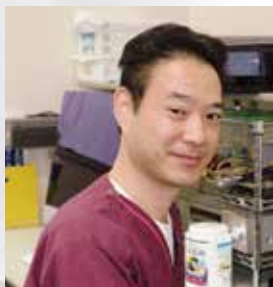
問い合わせ先

秋田大学医学部循環器内科学、呼吸器内科学講座
医局長 佐藤 一洋
メールアドレス: kazuhiro@doc.med.akita-u.ac.jp
TEL: 018-884-6110
構成: 医局員数/36名(循環器25名、呼吸器11名)

指導医メッセージ

雄勝中央病院
脳神経外科

大塚 聡郎 先生



当院は秋田県湯沢雄勝地域の中核病院であり、1次、2次医療を担っています。救急医療、その他一般内科・外科的診療など、初期研修に十分な症例が経験できると確信しています。また、高齢者医療を通じて地域医療研修にも最適な環境で、現在の医療の必要性・問題点などを実感して頂くことが可能です。さらに、各科医師との連携が良好であり、お互いの個性を認識し合える職場環境が当院の特徴です。当地は決して都会ではありませんが、自然が豊かで風光明媚、おおらかで優しい土地柄、お酒が美味しい、また、フットサル、テニス、冬はスキー・スノーボードなど就業時間外の活動も楽しんで頂けます。当院での研修はいかがでしょうか。

研修医メッセージ

能代厚生医療センター
藤井 康平 先生
(九州大学・熊本県出身)



私は九州で生まれ育ってきたため、この病院に見学に来るまで、東北に足を踏み入れたことがありませんでした。そんな私が研修先に当院を選んだのは、実際に病院見学に伴い、指導医の先生方と研修医の距離が非常に近く、どの先生方も「研修医を育てよう」という想いのもと親身に指

導を行っているということを感じたからです。実際にこの半年間研修を行ってみて、先生方だけではなく、コメディカルの方々からも厳しくも暖かなご指導を頂き、充実した研修を行っております。また、他にも精神科病床がある点や手技の豊富さなど、素晴らしい点が多くあります。

研修開始から半年とまだまだ未熟であり、いろいろな方にご迷惑をおかけすることも多いですが、このような素晴らしい環境に感謝しつつ誠実に研修を行い、患者に寄り添った医療を行っていきけるような医師になれるよう、努力していきたいと思っております。



大館市立扇田病院

〒018-5701 大館市比内町扇田字本道端7-1
TEL: 0186-55-1255(代表) HP: <http://www.oogita-hp.jp/>

大館市は人口約7万5千人、青森県と隣接する県北部の中心都市です。秋田犬、比内鶏、きりたんぼ、曲げわっぱなど、全国的に知られた名産品を産出する魅力的な街ですが、秋田市、盛岡市、青森市のほぼ中間という地理的条件、新臨床研修医制度などの影響を受け、医師の確保は紆余曲折を経てきました。

当院はこうした時代の要求に対応して、療養病床(平成15年)、セミオープンベッド(平成19年)、夕やけ診療(平成20年)、総合診療科(平成24年)、訪問診療・訪問看護など、地域に密着した特色ある病院を目指してきました。病床数は平成14年まで150床(一般)でしたが、現在は104床(一般62、療養42)で、地元出身医師と自治医大卒業医師の7名で診療しています。

学生や研修医の教育にも力を入れており、自治医科大学、秋田大学の学生実習を毎年行う他、大館市立総合病院や弘前大学から研修医(地域医療)も受け入れ、地域医療の現状と実践を学んでいただいています。

2025年問題に対応するため、地域包括ケアシステムの構築、地域医療構想の策定が急務とされていますが、私たちはこの問題に既に直面しています。CBM(communitary based medicine)の考えに基づき、「地域住民の心の支えになる病院」を目指して、これからも職員一丸となり努力してまいります。

… お問い合わせ先 …

秋田県健康福祉部医務薬事課 医師確保対策室 〒010-8570 秋田市山王4丁目1番1号
E-mail: ishikakuho@pref.akita.lg.jp Tel. 018-860-1410

